

第1回 交野市総合教育会議

日 時 平成27年7月3日(金) 13:00～

場 所 交野市役所 本庁3階 第1委員会室

出席者 市長、山本教育長、羽石教育委員長、中井職務代理者、神谷教育委員、森脇教育委員、  
良部長、船戸教育次長、盛田部長、北田部長、坪井部長、苗村次長、南課長、福田課長、  
吉田、後藤課長代理

傍 聴 なし

市長 挨拶

① 要綱案について(担当者より説明)

質疑なし 承認される

② スケジュール

8月10日 第2回

9月 7日 第3回

概ね大綱策定までに3回の議論をめぐとする。ただし、議論を重ねる中で進捗状況に応じ、フレキシブルに対応する。

③ 教育大綱

事務局説明 教育の基本方向を検討する際に先行市でどのような考えをしているか。お題目だけ。大きく基本理念と基本目標。特徴的な東かがわ市。重点的な施策を示している。学校教育ビジョンとミックスされた形になっている。

市長 今ここで皆様方にご意見をお伺いしたいのは、この教育大綱は、市民の皆さんが、見ていただいて、このまちの教育は何を柱に、どういった目標を立てているのかが分かるものでなければならぬと考えています。すでに教育委員会の方で、学校教育ビジョン、特に学校教育に関わるものについてすでに掲げているが、このビジョンを見ても、二つの基本目標、4つの施策の柱、10の基本政策・施策という作りこみをしている。要はわかりやすい整理が必要であろうと考えています。

また大綱ということなので、どこまでを大綱として位置付けるのか、掲げるのか。まずその基本的な骨格の部分について共通認識を持ちたいと思います。この教育大綱、本市の教育大綱については、大きな方向性と基本的な方針、どこまでをまず教育大綱と、いう風に掲げると、してはどうかと考えておりますがいかがでしょうか。

中井 事務局に質問ですが。いくつかの教育大綱がありますけども、大体同じような文章が並んで

ますよね。同じ文章がなんで並んでいるのか、どこからこういう文章を導きだされているのか。それは偶然同じ文章が並んでいるのか。根底に流れる、それぞれが大綱を作るうえで、根底でどういうことを参酌されているのか。どういうことをベースに大綱を作られたのか。

事務局 国の教育基本計画がそもそもございます。それを受けて、各市町村の教育振興計画がすでに動いているところもあります。それを今回大綱という形で、示すことが法的に要請されているわけで、すでにそれぞれあるプランも参酌しながらという部分も当然あるかと思えます。今の現状、子どもたちの置かれている教育現場の課題は、多少はそれぞれの市町村によって異なると思いますが、職務代理のおっしゃった根底の部分は大きくは変わらないと思えますので、どうしても各市町村で取り込まれる基本的な大きな目標としては、大きく4つの分野であるとか5つの分野はある程度似通った言葉で整理されてしまうところはいたしかたないところなのかと思えます。

中井 私はこのひとつのベースとして、ペーパーでお配りいただいた振興基本計画、それ以前の問題として、指導要領の改訂があると考えています。指導要領の改訂からそれを受けて基本計画という流れがある。2011年2012年の指導要領というのが、基本的な教育行政のベースになってるんじゃないか。まさにここに書かれている言葉も中味も、指導要領の中に出てきている。この指導要領というのがですね、先般新聞で報道されていましたが、2020年から大学の入試制度が大きく変わるんです。これはテクニカルな問題ではなく、大学の入試制度そのものの考え方が変わるということです。そのペーパーを読みますと、結局、1つは、知識・技能を活用し自ら課題を発見し、その解決に向けて探求し、成果などを表現するために必要な思考力・判断力・能力を中心に評価されてる。いわゆる知識・技能ではなく、それ以前の考え方に基づく。大学でそういう教育をしたいからそういう風な、子どもたちが素質を受けているか、ということの入試制度に2020年から変わるんです。それでこの変わる中味というのは、2011年の指導要領で。ということは、文科省は指導要領で授業を変えよう、そして教師が教える指導から、子どもが自ら学ぶという授業力の考え方。それからずっと流れを追ってやってきて、2020年に大学入試制度が変わる。2020年の大学入試試験を受けるのは今の、小学5・6年生から中学1年生です。したがって、今、この問題をきっちり対処しないと、皆さん方の子どもが困るんですよ、というお話をされた方がいまして。ということはやはり未来からの視点ということであれば、私たちの子どもは大学入試だけの問題ではなくて、生きていく上での考え方を変えようというのが2011年の学習指導要領で変わってきている。その根底を受けて、みなさんこういう風にされている。学習指導要領に戻ってですね、教育を本当に教育大綱が子どもたちをこういう風に育てるんだという未来の視点を明確にもった大綱にしなければ、今までの焼き直しでは到底、今後の教育は変えられない。大綱というのは重要である。ということは、我々教育行政、税金もらってやってるからには、市民からの要請というのは子どもたちが時代に合う教育をしてほしいということですよ。よく教育が100年の体系とか時間がかかるものとかいうお話がありますが、まさに今受けてる子どもたちが2020年に、指導要領が求めている知識・学力だけではなくて、思考力・判断力・表現力、ここまで養える教育ができるかどうかということが問われているということを、大綱策定前に私は強くお話しておきたい。ものまね、焼き直しだけでは、対応できないということだけは、非常に私今危機感をもっています。今現在それに対して、できているかできてな

平成27年7月3日(金)

いとは私言っていないですけど。それはいわゆるクオリティの問題とスピード感の問題で、本当にそれに対応できているのかということのチェックからこの大綱というものに入っていくことには。ただ単にこんな文章だからこんな文章作りましょうか、ということでは仏を作って魂を入れずということになりますので。さきほどスケジュールが3回というのがありましたが、3回でできなければ4回5回とすべきものだと思いますので、ただ単に大綱をつくりました、他とよく似た大綱ですよということではなくて、これに基づいて我々教育委員会が本当に教育できるという。そのためには、市長部局のあれとして、さきほどのペーパー、これありますよね。これに重要な項目が書いてあります。教育成果の保障に向けた条件整備と書いてるんですよ。ということは、教育成果の保障というのは、我々税金使ってやるわけですから、教育成果に対して市民のみなさんに保障しなければならない。ただその保障するうえで、条件整備をしなければならない。明確にですね。したがって、みんなやってくれたらええけど、お金は出しませんで、とか。予算というのが大事になってきますので。予算を市長部局の方でつけていただくためにも、今後の教育施策の大方針について明確なコンセプトをやらなければ、セーフティネットで一人一人の子ども見捨てない為には、従来の教育の人・物・金ではできるのかできないのか。その辺のコンセンサスを得るくらいの大綱を作っておかなければ、本当に仏に魂がないことになりますので、私の意見として申し上げます。

森脇 今、中井さんがおっしゃたのは、あの理念の部分ですよ。

中井 理念、目標ですね。

森脇 でも、目標は理念に基づいた目標なので、まず基本理念、大綱全般考えるときに、基本理念というものをしっかりとおっしゃるように。同じ方向を向くということが大切なんですよ。

中井 特色ある学校をつくり、交野市らしい教育といいますますが、それはあくまで最低レベルのクオリティとスピード感の上での話。まず本当にこの状態で、交野らしいクオリティ・スピード感がある教育ができるかどうか。そのための大綱ではないかと私は考えます。

市長 今、中井職務代理のほうから、非常に今後の大綱策定に向けて基本的な姿勢といいますか。今日、他市例としてお示したのは、あくまで、真似をすとかではなく、大体どういったような内容を皆様方策定されているというイメージを持っていただくということでございます。先ほどのスケジュールにもかかる話ですが、おおむね三回といったような話もさせていただきましたが、当然、特にこの教育に関しては、これまでも教育委員会がいろいろと議論していただいて、新たに会議が創設された趣旨は何かといいますと、やはり予算・さまざまな課題を含め、市長部局と教育委員会しっかりと連携・意思疎通をして実のあるものにしていきたいと思いますというのが、趣旨でございますから、いまのご指摘については、しっかりとその理念・基本方向性について、これから将来どうなっていくのか。日本の子どもたち、交野の子どもたちをどのように育てていくのかという大事な部分をしっかりと議論しながら、最終的に文章としてどういった表現を使い、どのような形で掲げていくのかということは、まだまだこれからの話でありますから、そういった視点も十分踏まえ

ながら議論させていただきたいと思います。他にご意見ございませんでしょうか。決してこれは答えがあつてないような会議でございます。その中で、しっかりと答えと言いますか、我々市長部局と教育委員会、要は市民の皆さんが、そうだねと言えるものを作っていく、1つの作業でございますから、今の段階では、その中味も含めて、どんどんと意見を言っていて、それを集約していくということでございます。忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

神谷 よろしいでしょうか。やはりこの基本理念・基本方針というのは、交野市100年の教育計画を考える上で大事だと思います。絵に描いた餅にしないためにも、主要施策をどこまで書き込めるのか、というところが一番大きな課題ではないかと思えます。将来性も見つめながら現実も見ながらですね、どこまで書けるかというのが一番大きな課題になってくるのではと思います。その議論をどういう風に進めていくのかというのが1つ大きなポイントになると思います。そのための論点整理を早めにしておく必要があるのではないかと私は思います。

中井 さっきの話の追加ですけれども、基本的に皆さん「生きる力」「生きる力」といいますね。これはやっぱりこの振興計画で基本的な生きる力の養成というのを明確にうたっているわけですね。生きる力というのは、豊かな人間性、健康体力、確かな学力で構成されます。非常にわかりやすいですよ、豊かな人間性とは、国及び社会の責任ある形成者として必要な教養と行動規範を身に着けることと言い、確かな学力と社会性をもって多様な人々と共同してまわる力、知識技能を活用して自ら課題を発見し、課題に向けて探求し成果を表現するため、必要な思考・判断力・表現の能力と、それと知識・技能。このようにはっきりと明確になっている。それについて、具体的な指導要領では、思考力・判断力・表現力を育みましょうとはっきり言ってます。あと伝統や文化に関する教育を充実しましょう、道徳教育を充実させましょう、健やかな体を育てましょう、理数のチカラをはぐくみましょう、外国語教育を充実しましょう、体験活動を充実します、社会の進展に対する教育をします、ということで、この豊かな生きる力、豊かな人間性、健康体力、確かな学力。そして確かな学力の意味づけ。そのためにはこういうことをやっていきましょうと、非常に明確にされているわけです。そのなかで、交野のオリジナリティというのか、私は。ほんで、これを2020年の大学教育では入試制度で問うていきましょうというわけです。ということは、個人的にはあんまり中味に議論しなくて、社会的に要請されているものをいかに、クオリティとスピードで達成される、そのような大綱を作る。神谷先生のおっしゃいましたけど。どういう項目を求めるのか。新たに議論する必要があるのかと。いうよりも、これは皆さんから批判をいただきたいんですが、私は民間人なので非常にシンプルで効率的なものの考え方や行動をします。そのためには物まねでもいい、先行事例で有効なもの、もしくはモデルケース、もしくはひな形があればそれを利用して早く目的を達成する。達成するには、その成果の保障ということは、今回結果責任を問われるわけですから。成果の保障というは、僕が、こういう世の中から求められている内容を、いかに我々執行部が充実していくかということですから。私は大綱の中味について議論することはないんじゃないかなと思います。それよりは、大綱の中味について、市長部局側は教育成果の保障に向けた条件整備をいかにする覚悟があるのか、そういうことが大綱の中で問われる。大綱の中味について、こんなことやっていきましょうよと、すでに授業改善でも、子どもたちの思考力判断力表現力を育成するよ

うな授業に変えていきたいと思いますということを、現場の人が一番よく知っておられます。大綱の中味についての議論よりもこの中味の、交野市としてのクオリティとスピードでいかに成果を上げるかという議論の方が熱が入るのではないかと思う。

山本 僕は理念としては、よく理解できます。ただ、やっぱり大きく戦後の教育は変わってきています。個人一人ひとりの個性をどう生かしていくか、いま大きく授業の中で取り入れていけという風に変わってきているんですね。だから、社会が求めていく人間を作っていくという考えから、少し離れている。理念としては、そういう言い方をすればこの大綱も同じ内容になってしまう。やはり、それを具体的な施策にするときには、今交野にはどういう特色があるのか、問題点課題があるのかというのを分析したうえでないと施策なんて打てない。だからその議論をしていく。

中井 今の話では、私は理念の話をしているのではなくて、教育目標の議論。結果的には、これを大阪スタンダード、大阪スタンダードというのは大阪府の作った授業改善の1つの形式ですが、その中でも思考力判断力表現力を育む授業をどうするか、これを一番の課題にしている。それは、すぐに私が社会的要請という経済的な活動のための営利的なことではなくて、今社会的に求められる人間像というのは、別にお金儲けが上手とかではなく、基本的には自分でものを考え、自分で判断し、自分で表現できる、これがグローバル化の世の中にも通用する、そういう子どもを育てようということですから。その社会的要請が交野市の独自の教育と大きく離れるとは思えない。これが一般市民の要請でないかなど。いわゆる従来の知識・技能偏重ではなく、自ら考え、自ら判断し、自ら表現できる力を養いましょうというのは、何も経済合理性から来たものではないと思います。

羽石 今の話の中で出ているのは、学校教育の話に重点が偏りすぎているけども、この場で議論する教育というのは、生涯学習を含めた社会人教育これと学校教育を二つとも同じようなウエイトで見えていく必要がある。どうしても学校教育が中心になりがちだけど、やっぱり交野で生まれ、交野で命を全うするというのであれば、交野で生き続ける中で、交野の教育としてどういう風なものを市民に与えるのか。僕は、本当は学校は学校教育でいいんですが、社会人は教育ではなくて学習だと本来は思っています。社会人学習、生涯学習ですね。そういうような場づくりをどんな風に考えて、交野に住む住民は教育的なものに対する考えは、どういう風にみんながもっていかなあかんのかっていうところに基本理念を、必要があるんだろうと思う。そうするとその辺をすべてこう包括した形で、というのは、この先行している市町村の大綱の中にも全体像が似ているなというところも見えています。今、ここで考えるときに、どのあたりを交野として考えていくのかということ、大前提に置いて考え、その中で基本方針の基本の中では学校教育も出てくるでしょうし、生涯学習の問題も出てくるだろうし、基本理念というところをどういってどこへ持っていくのか。陸前高田や東かがわを見ていきますと、何も学校教育ということに固執しててもない。その辺をうまく固めて、今日目標、最終的な大綱の中には、ある程度施策というのは入れていかないと方向性が見えてきませんから、そういう面ではそれは必要なことになっていくと思います。そういう意味では、もっと全体的なものを見る。その時に、教育長言われた、交野の今の教育の中をある程度は分析が必要だなと。要は、今までやってきた交野の中の学校教育と、もう一つは社会人

学習、生涯教育。その辺がどういう風に行われ、これでいいのか、もっと考えるべきところがあるのかっていうその辺の分析はやはり必要なのかなと。

森脇 教育大綱というのは、義務教育に対する教育大綱なのか、そうではなく全体に対する教育大綱なのか、理念の中の言葉も当然変わってきます。だから広範囲の教育大綱としての考えであれば、本当に言葉が限られてくるというか、例えば交野市民全員の幸せのために教育があるべきなので、義務教育も含め、大きな目で市民の教育機関としての、理念を考えたときには、全市民の幸せのためにという言葉に近いものが選ばれてくるのかなとったりする。それに対して方針の中で、義務教育についてはこうこうと、高齢者対策はこうこうといった項目分けは必要になってくると思う。その辺が理念の置き方で変わってくる。

市長 まずは骨格をどうしましょうかという話と、盛り込む、取り扱う範囲、内容の話で、今羽石委員長、森脇委員の方から、学校教育だけではないということでもまさにその通りだと思う。この教育大綱に盛り込む内容としては、学校教育に関する事項、教育環境に関する事項。環境といいますが、ハード、施設など色々あります。そして地域とのかかわりに関する事項、最後に生涯スポーツと文化に関する事項。これは先日の意見交換の中で、キーワードになるのかなということ。ですから教育大綱が扱うことというのは、学校教育のみだけではありません。今申し上げた4つの分類で。ですから、もう少し広い中での方針、理念を掲げていくべきではないかなというお話を後ほどさせて頂こうと思っていました。それこそ、職務代理者や神谷委員から、大綱の骨格は大事なんだけど、それを踏まえて具体的に何をしていくのかが最も重要ということが趣旨だと思う。となると大綱ではそこまで入れませんと言いつつ、そこを視野に入れた議論をしなければ仏作って魂入れずになる。あくまで、他市の事例を参考に理念、基本方針を当たり障りのなく、とりあえず作りましょうというのではない。迷走していただいて結構。ただ、学校教育ビジョンが教育委員会の方で策定いただいておりますので、まずはこれが一定ベースとなる。ただ、ここには盛り込まれていないことやここをもう少し強調していこうというところもあるので、その点も踏まえての議論をしたい。ですので、範囲としては4つの項目。それを含めた形での、基本理念、方向性を教育大綱として位置付けていくという風に考えているのですが、いかがでしょうか。色々ご意見を頂いたんですが、ですから具体的にはここ個別の具体論を本日進めたいと思っているのですが、くくり方として、骨格の話。そしてその範囲については、今申し上げた学校教育から社会教育に係る話。それについての理念と基本方針、これを一定大綱として掲げていくという、そういうイメージですね。今後議論を進めさせていただけたらと。ただ、具体的に何を掲げるかはこれから、各論の議論に入る中で色々なキーワードが出てくると思います。本当にもう言葉の意味、何のことなんだというところ。我々としてきちんと共通認識を持っていないと。それこそ、言葉の羅列になる。たとえば神谷委員、法律家ですが、法律なんかでは逐条解説といったものがある。条文云々がある中で、それが何を意味しているのか。そういったところもちゃんと理解していきましょうという話であったと思う。最終教育大綱が成文化できるか、現在その議論が始まったばかりで、まずはその方向性と範囲だけ整理させていただけたらと思います。ただ、イメージできなければできないでしょうということは理解しており、策定過程の中で、議論する。で、今後、策定して、来年度予算を踏まえて何を現場でする

ということが重要。概ね議論は3回と申しましたが、決して3回にこだわっているつもりはありません。むしろ皆様方が本当に、大事だと思ふことを我々としても掲げたい。ですので、一定基本理念と方向性、扱う分野は学校教育から社会教育の範囲においてしっかりと議論するという事によってよろしいでしょうか。

全員 異議なし

市長 ありがとうございます。今、色々なご議論頂いたんですが、大綱の共通のイメージとしてまずは基本の方向性、目標というものをしっかりと掲げる。かつ扱う中身は学校教育に関する事項、教育環境に関する事項、地域との関わりに関する事項、生涯スポーツと文化に関する事項を含めた大綱の柱に掲げるための議論をこれから進めたいと思います。なお、今日の議論は文章を決める議論ではありません。あくまでも何を盛り込んでいくのかの議論である。

#### 【学校教育に関する事項】

市長 教育委員会の方で既に学校教育ビジョンが策定されておりまして、大きく理念として「心の育み、変化する力、変化に対応する力の育成」と掲げられており、それをもとに施策の目標と4つの施策という構成を取っていただいております。

森脇 職務代理者がいう意見がとってもわかりやすくいいと思う。ほぼほぼうまくまとめた言葉ということで、網羅しているようにも思うんだけど、自ら学び、考え、行動するという言葉はとってもうまくまとまっているなと思う。どこの企業でも昔は教えて教えてという時期もあったが、それでは応用のきく人材は育たない。どこの企業でもそういう人材では役立つ人材にはなれない。こういうことは小さい時から意識付けを行う。教育のやり方ひとつで変わるなと思う。この方針というのは分かりやすいなというのは分かります。ただ、もう一つ、物事を自分で考える組み立て方とか、発想力を養うことも必要だが、心の問題もある。自分以外の人のことを考えられる力さえあれば、社会人として育っていくと思う。

山本 学校教育ビジョンを策定するのに何年もかけてきて、一定ビジョンとしてまとめさせていただいて、毎年アクションプランを作って事業展開をしている。27年からは学力向上プランの中で、施策事業の方向性までしっかりとやって。厳密に各小中学校ではこの授業スタイルで授業が始まっておりますので、特にこれをうまくまとめれば、大綱はこれでいいのかなと思います。この中では学校がすべきこと、教育委員会がすべきこと、家庭がすべきこと。これらがすべてまとまっている。今まで交野の教育で重点を置いてきたのは、生活指導に重点を置いてきました。よくいろんな校長先生とお話をする中で、子どもたちが落ち着くと学力もそれに比例してついてくる。だから臨床心理士を置いたり、教育センターの相談指導スタイルを充実させたりと。中学校でいろんなことをした成果。中学校が落ち着いているから、あのような学力の結果になっている。今後も生活指導の充実が学校教育の中でも重要な柱になってくる。余談になりますが、交野市は他市と比較しても不登校児童が少ない。交野が持つ地域性もあるけれども、今までやってきた施策の成果。なかなか0に

はならないけれども1つの心の取組みの成果になる。その落ち着きの中で、教育委員会が進めているのは、読書の推進。中学校でも毎朝10分間の読書時間。学校の先生からもとても好評で1時限目に入るときの落ち着きが違うということ。1つの手段として有効。そういうところが必要なのかなと。

中井 1つの教育施策に入っている。ただコンセンサスになっているかどうか。私がいうクオリティとスピードが伴っているかどうかということは問わなければならない。ところが交野だからではなく、交野の教育をもっと高いところに持つためには他との比較はどうなのかということに常に考える。授業力の改善というのは、1つは大阪の成績が悪かったと。何とか授業力を高めて成績を上げよう。それと思考力、表現力、判断力を高めるような授業をしよう。これは具体的には教える授業から、考える授業へ大転換。これが平成24年から始まっている。指導要領に基づくことにより教え方が大きく変わらざるをえない。交野のすべての小学校のクラスでスタンダードを作る。他のところから比べると進んではいるが、2年、3年後にはどうなのか。交野が先頭を走ってほしいということを考えているので、クオリティとスピード感を持って。交野の小学校でそれで走っているのか、そういうところを検証しながら、大綱として、交野が一番高いクオリティでやるべきやと。そういうような大綱を創るのか。どのレベルで大綱をつくるのかということを考える。したがって継続的な議論が必要ではないか。

森脇 目標をどこにするのということを明確にした方がよいということですね。

山本 大綱は具体的なものでなくてもいい。ただ、せっかくこういう会議ができたんですから、いろいろなことを議論したらいいと思う。学校教育ビジョンの中で出てこないのが、最近の子供の貧困の話。子どもの放課後の居場所づくりということではビジョンの中に入ってますが、交野でそういう議論はなかなか出てこないんですが、近隣では子どもの貧困に対して教育的な平等性をどう保障してあげるのか。そういう話も入れていただければ、入れてあげれば。

神谷 今の子供たちにとって必要なのは、希望と安心を持てるということが重要だと思う。希望というのは、自分の力で日本や国際社会で生かせるという道があるんだということを実感させていくことを学んでいく。安心というのは、その中でどうしてもついていけない子供たちに、もう一度学びなおしができるのだということを担保する。この両面が必要なのだと思います。その部分をうまく教育大綱で示して、それに応じて交野の豊かな自然、豊富な人材、人間関係というものが町ぐるみ、学校ぐるみ、家庭ぐるみでどう生かせるのかが重要だと思います。

羽石 交野市の学校ビジョンをHPで見ている人はたくさんいます。その交野ビジョンで一番最初に「情(こころ)を育み」という言葉が出ています。これは他市にはない。他市では知識や学力という言葉がまず出てくる。交野は強い心、ソフトな心つまりデリカシーを持つ子どもたちを育てようと、まずそこを第一にHPに掲げているのは本当に良いところであると思います。それが交野の大きな学校教育の特色になっているのだと思います。当然、学力は必要だけれども、生きる力を考

えたときには心を作ってあげないといけないのです。大綱の中にもそのあたりを出すことで交野らしさができるのだと思います。多方面から心をビジョンに入れていることはすごいことですねと言われます。

中井 ただ反対に情と書いて心とは読みませんと、こういう漢字を教えているのですか、こういう話もありますがどうですか。私は昔、宣伝の時に通常読まない漢字を当てはめたのですが、これは子どもも読むのだから子どもの教育をどうするのやと言われました。やはり情緒だけに進んではいけないと思う。ある程度明確な目的を背後に汲んどくとすれば、そこまでわれわれは考えて大綱というのは作っていかなければならないと思う。

羽石 ここでいう心というのはデリカシーと読みました。強い心を持たないとデリカシーは持てないのです。だからハードな心、ソフトな心そう解釈しているのです。使い方、表記をするという時はまた、議論したらいいと思いますが。

市長 教育に関する事項についていろいろとご意見をいただきました。キーワードと言いますか、冒頭も森脇委員から国が示している教育振興計画の中にある自ら学び考え行動する力、それは端的に話した言葉じゃないですかというご意見をいただきました。その中で心の問題というのが大事なんじゃないですかという話。山本教育長の方からは学校教育ビジョンで掲げているものがベースになるかと、具体的な施策でいきますと家庭支援が大きいですね、家庭が安定すれば子どもも安定しますといったお話。読書習慣は授業に入り込む手法としては現場では有効に機能しているというご意見もいただきました。中井職務代理は教育ビジョンに含まれるのだけれども具体的な施策にどう結び付けられるかということで考えると、一つ授業力というものを高めていくにはどうしたらいいかという話。教育長からは子どもの貧困という問題。そこをほったらかしにしていいのですか、子どもの貧困が16%を超えている、そこをふまえていくのはどうかというお話。神谷委員の方からは希望と安心が持てるというのは、そこがやっぱり大事ではないかと、学びなおしができる希望と安心があるというのは教育としては大事なキーワードではないかという話。羽石委員長の方からは、すでにビジョンで掲げている心の育みというこの言葉は、他市にない交野市らしい言葉であり、人と人との基本的な付き合い方を大事にし、しっかりと小学校中学校で教えていくことを掲げているこの言葉は大事なんじゃないですかというお話をいただきました。

羽石 学校教育ビジョンはいろいろ網羅されている。その中で主要施策を選び出すために一つのたたき台として教育ビジョンを使う。これを中心にどれを浮かび上がらせて何か足りないものを補充するというのはどうかなと私は思う。

森脇 私も教育計画の言葉はとても分かりやすいと思うが、これだけではだめだと思う。国の方では道徳教育という言葉が出てきますが、交野でやっている心の育みであったり心の教育という言葉で表した方が分かりやすいと思う。安心とか希望を持てるということに関して、憲法でもあるように、交野市の全ての子どもがという言葉が入ることによってイメージとして、全ての子どもが安心

に過ごせて希望を持って未来を考えられるという基本的な考え方を大綱に表すべきだと思う。

中井 もう一度指導要領スタートにして考えるべき。ビジョンを中心になるとは今でももれているものがあるのでどうかと思う。指導要領には例えば地域ぐるみで子どもの教育に取り組む制度作り。学校地域支援本部、放課後子ども教室とかが事例を挙げて充実していくとされているが、なかなか交野の場合はお金がないからということで、形はあるが実質機能しているかどうか。本来であれば交野市を挙げて地域と学校を結ぶシステムを作っていくというのが私のいうクオリティとスピード感なんですね。もう一度何が大事なのを見極めて、ビジョンの中ではどううたわれているのか、ビジョンでうたわれてないものでもこれは重要というものはひろっていくのが重要である。なのでビジョンからスタートするとズレが出てくるのではと私は思う。

市長 学校教育に係る議論をこれで終えるわけではないが、いったん今日はここまでとさせていただきたい。キーワードを探す作業。色々な意見をいただいた中、先ほど申し上げたキーワードも含めて、基本的には学校教育ビジョンに掲げられた内容であるが、そもそも何がもとになっているのか、2010年、2011年の指導要領を見つめなおすことも必要ではというご意見。色々なご意見をいただいた中でも、本当に実のある内容にしていく、この点については、皆様の共通認識をいただけたかと考えている。そのほか、個別いろいろとご意見いただきましたので、整理をさせていただいて、皆様と改めて協議させていただきたい。

#### 【教育環境に関する事項】

市長 引き続き教育環境に関する事項に関しても協議させていただきたい。対象となる範囲は、学校施設、校舎。ICTなど魅力的な教育を受けていただく教育機材など(ハード)。それから、教師力、先生のスキルアップ。それから、今後はたして交野において、現在小学校10校、中学校4校あるなかでこれだけの規模が必要なのか。簡単に申し上げますと学校規模の適正化。学校教育ビジョンにおいても一定課題として挙げられているが、それをどうするかというところまでは言及されていない。教育環境といえば学校規模の適正化も入ってくると考える。子供たちは学校だけで学んでいるのではなく、様々なところで学んでいる。地域によって差があっても駄目であろう。規模の適正化も大きな課題として、具体的にどうしていくのかというところまで掲げられるのかどうかは別に直視していかなければならない問題であると考えている。というところでご意見を頂戴したい。

羽石 学校施設、ハード面から。耐震化、長年やっているが、雨漏りしたということで予算を組むという流れできている。先のメンテナンスを考えていけば、突然の大きな改修はないはず。子どもたちを預かる以上、先を見据えたメンテナンスを考えていくべき。こういうことも、大綱の中にも含めることはできないかと考えている。これまでは建てたら建てたまま。他の施設もそうかもしれないが。学校は震災の時にも使うことも考えるなど、何かあったときには学校に集まるということを考えると、年間計画を立てて対応していく必要がある。ソフト面では、教師力のスキルアップ、適正化、これも重要。それから、これを教育環境に入れるべきかどうかはわからないが、あえて私は、地域との連携協力を入れていく必要があるのではないかと考えている。地域との連携の中で、学校

の空き時間、放課後、そういう時に協力してもらえるボランティアなどのバックアップ体制を作っていく必要あり。教師のスキルアップといっても授業のことはもちろんだが、課外部分に関しても広げていくとなると、教師も授業をすることに時間とエネルギーを使っているなかで、地域との連携、地域人材の活用というところも考えていく必要がある。

市長 カテゴリーはしたが、どこに入れるかは最終調整。学校メンテナンスのお話、計画的なメンテナンス計画を大綱にというお話と、地域との連携、学校施設の活用、地域人材の活用、という部分も大綱に盛り込んでいくことも必要ではないかとのご意見。どんどんと意見を出していただきたい。

山本 ソフト面。ここ何年かの間に、何百人という校長、教頭がやめていくというのが北河内の状況。その中で教師のスキルアップは絶対条件。ただ、教師、学校の負担感というのはすごく大きい。いかに教師の負担を増やさないで、スキルアップの支援をしていくかというのが絶対条件になる。これを間違えると学校は協力しない現状。二中の成功は地域が主体。どうしても財政的な支援を直接入れていく必要があると考えられる。

中井 地域との支援の話は、指導要領にも書いてあるが、学校だけではできない、地域の力を借りていく必要あり。先行事例は多くある。島本町ではゆめ本部というものを作って、そこがボランティアを集めて活動している、東京都杉並区では、学校支援本部をつくって、これはあくまで学校に負担をかけないような形で、学校支援を行う。教育委員会だけでできる話ではない。市長部局も含めて考えていかなければならない。それから、障がい者の問題、交野子ども子育て支援事業が作られたが、要支援だけではなく、多動性の子どもたち、小さな時から対応していくというシステムというものもあるし、学校現場だけではできないこともある。市長部局ともハードの部分も含めて一緒に考えていかなければならない。トイレの問題などハードという部分は、施設の部分だけでなく、心も問題も含んでいるのではないかと考える。文部科学省の考え方があるが、一方で6、3制度が疲弊したというものもある。小中一貫という考えもある。これらも含め、子どものことを考えて学校再編というのも考えていただきたい。

山本 学校環境になるのか、教育環境になるのかわからないが、支援関係の内容が重要。福祉関係と協調していくことが必要な子ども達が多い。いま全国的に広がっているのは、SSW、福祉と教育を結びつける先生、専門家がいる。直接福祉と話ができるので最低でも中学校ぐらいは欲しい。そのあたりがうまくいかない。家庭へも支援していかないといけない。

中井 湖南省では全国のトップクラスの取組。視察も行ったがあそこまでやらないといけないのかという感想。2：6：2の問題でその勉強の苦手な2割をどうするのか、セーフティネットの問題。家で勉強を見てもらえない子どもや勉強する習慣のない子どもは、学校では厳しい。だから地域。島本町でもゆめ本部として取組を行っている。やっているところもあるし、やればできるので、大綱へお願いしたい。

森脇 少人数がいいのは決まっている。問題が多様化してきてサポートの必要性が多くなってきている現場。障がいや保護者の問題を抱えながら教師は大変。それをサポートするのが重要。それはお金がかかる話。お金が出せないのであれば、地域で解決していかないといけない課題。そこを真剣に考えていかないといけない時期に来ていると思う。

交野市は、元教師もすごく多いし、うまく活用できれば…

もう一つは、学校施設の問題。交野市へ来るときに何があればうれしいの？と聞けば、公園の問題という。学校があるのに公園では遊べない。子どもは遊びの中で育っていくということを言うのに、遊び場がないという状況。管理が難しいということもあるが、本気で考えればできるのでは。

羽石 摂南大学で去年の七夕まつりでアンケートを実施した。ずっと交野市で子育てしますかという問いに対して、30数パーセントの方が否定的な意見。その理由を聞けば、遊ぶ場所がないということであった。次に買い物する商店街がないとの答えであった。

安心して子どもをあそばせる場所は重要。公園があってもボール遊び禁止、ジャングルジムは禁止。ブランコは外れているといった状態なら遊べない。学校教育の問題ではないが、健全な子どもを育むということでは、小学校関係で考えていただきたい。

市長 教育長からは、現場での教師の負担をサポートするのが大事であるとの話。教育と福祉との連携は教育委員会だけではできないとの話があった。中井職務代理からも障がい児への対応もあった。学校支援への人材や財源の面は、やる気の問題という話もあった。ハードの面で言えば、トイレの話もあった。適正化ということ言えば、経済性優先の話なのか、システムとしてのクオリティの高い一貫校をとという視点が大事であるとの話があった。交野市内に遊ぶ場所がない中で、グラウンドをどう活用するのかという話があった。また、アンケートでは、交野を否定的にとる理由として、遊び場所がないということもご紹介をいただいた。これからもキーワードをどんどんいただいて、共通認識を持っていく場としたいと考えている。今日は、学校支援ということも話があったが、地域との関わりや生涯スポーツと文化という部分ができていないので、次回はそうした話をしていきたい。教育大綱については、この程度にしたい。

#### 【その他】

羽石 事務局サイドからも助言を頂ければありがたい。そうすれば膨らんでくるのではないかと考えている。それは、会議運営上可能ですか？こちらから聞くということではどうですか？

事務局 それは、答えさせていただくことになる。

市長 総合教育会議を実りあるものにしていくために、どのようにしていけばいいのかということなので、精度の高い議論となるようにということなので、次回までに整理させていただく。この場所の最大の意義は、市長部局と教育委員会が、本音の部分で、今後の方向性が共有できるかが課題であって、それがなければ、具体的な施策になっていかない。スケジュールとして事務局、ど

平成27年7月3日(金)

うですか？

事務局 現在、3回目までを調整させていただいているが、翌年度のアクションプランや予算編成も考えると概ね秋までに整理したいという思い。

山本 北河内の状況を聞いてみると、もしかしたら交野が一番早く出来上がることになるかも知れない状況。

市長 スケジュールについては、あくまで目安としてお考えいただきたい。今後の会議の進行については、教育委員会事務局とも整理をしながら進めていきたい。

15 : 10

※本議事録は、テープ起こしではないため一部不正確なところもあるかもしれませんが、ご了承ください。